

## 「テオリア」白川論文を読んで

2017. 07. 18 大谷美芳

『テオリア』No56・57・58 の『資本主義に未来はあるか』を読んだ感想です。また、その基礎にある私の考えは、「リベラシオン社」で検索するとWEB上に『ロシア革命・中国革命とマルクス・レーニン主義を論ずる(大谷美芳)』という題の文章があります。

「はじめに『資本主義の危機』という不安のひろがり」から「資本主義はどこへ向かうのか」まで、この論文の90%はさして異論はありません。また最後の結論「資本主義へのオルタナティブを模索する」で、「資本主義へのオルタナティブへの2つの方向」として、第1=「公共的に規制されたくよりましな資本主義」への転換」と、第2=「非資本主義的な社会の萌芽創出による資本主義の蚕食」が提起されていますが、これも当面の人民闘争の路線と方針としては異論ありません。

例えば、東京電力に対する反原発の闘争が第1で、第2は自然エネルギーによる小規模な発電会社を協同組合経営で起業するなど。

問題なのは、書くべきことが書かれていないこと、です。何が書かれていないかと言うと、資本主義社会を新しい社会に取って代える革命が書かれていません(新しい社会を「社会主義」と言わないのも問題ですが)。

第2は実は「非資本主義的な社会」ではなく、資本主義社会の民主化です。新開さんがほぼ同趣旨の意見を貴兄に送っていると聞いています。

第1も第2も、新開さんの言い方によれ「過渡的綱領」です。私は「人民民主主義綱領」と言う方がいいと考えますが、要するに、ブルジョア国家と資本に対する、行政や企業に対する、ブルジョア階級独裁と資本主義の賃金奴隷制に対する、人民(その圧倒的多数は生産手段から分離し労働力を売って雇用されて賃金を得るしか生きる術のない労働者階級・プロレタリア階級)の下からの民主主義的統制です。

政治だけでなく経済も、社会全体に至る人民の民主主義闘争を拡大する、それによって日本の国家と社会が上からの官僚・資本=ブルジョア階級の主導と下からの人民=プロレタリア階級主導とに二重権力化する、そういう状況でしか革命はありえないでしょう。だから、当面の人民闘争の路線と方針としては異論はないのです。

しかし、ブルジョア国家と資本に対する人民の民主主義的統制で国家と社会の全体を変革することは不可能です。

官僚機構から成るブルジョア国家を人民の大衆的自主的な組織で取って代え、人民の労働の巨大な蓄積である(搾取された剰余労働)全ての資本を人民が奪い返して共同所有し、言わば協同組合的に経営することが必要です。

これがプロレタリア階級独裁であり、社会主義革命ですが、この革命が全然書かれていない。まだまだ先のことで今はまだ原則の確認であって、実践方針ではないにしても、言わなくてはならない。それが思想。

きっと資本主義に対する人民民主主義的統制は社会主義革命の「解放区」になるでしょう。

ところで、目指している「非資本主義社会」はどのような生産関係になっているので

しょうか？ 生産手段が労働者階級・プロレタリア階級の共同所有となっている生産関係(資本の収奪の結果)でしょう？ それ以外は考えられないでしょう？ それは社会主義です。

なぜ社会主義と言わないのでしょうか？ かつてのソ連と現在の中国を総括できていないからです。それが官僚制国家資本主義であり、そうなった原因は官僚主義にあることを総括できていないからです。ここで「あれが社会主義だ！」と攻撃する帝国主義・ブルジョアジーのイデオロギーに敗北している。

ロシアも中国も、資本主義が未発達で、民主主義革命からの二段階革命で社会主義革命を目指さざるをえなかった。

プロレタリア階級が国家権力を握って(国家権力への到達はロシアでは10月社会主義革命のプロレタリア階級独裁で中国は49年民主主義革命の人民民主主義独裁で事情は多少異なるが)、国家権力を使って社会主義の基礎として必要な機械制大工業化を実行した。

ところが、その機械制大工業が実は官僚主義を生み出し成長させ、それによって、生産手段の国家所有と集団所有が官僚制国家資本主義に変質・転化した(社会主義である時期などなかった)。

換言すれば、革命はプロレタリア革命としては敗北し、ブルジョア革命に終わった。ブルジョア革命と資本主義化という歴史的必然性が(これが20世紀までの時代基調)、イギリス・アメリカ・フランスの型やドイツ・日本の型とは異なって、ロシア・中国では官僚制国家資本主義となった。韓国・台湾など多くの国々には「開発独裁」という別な型。実は国家権力をテコとした資本主義の移植・育成で実際は大差ない。

ソ連では帝国主義の包囲と侵略の中でスターリンの官僚主義以外の道は提出されなかった。

中国では毛沢東が官僚主義を打倒したが国家と社会を管理できず大危機に陥り、鄧小平が官僚主義で救済し資本主義のグローバリズムに順応した。

ではその機械制大工業が必然化する官僚主義とどう闘うか？ 21世紀の時代基調は、直接的な社会主義革命(ロシアも中国・ベトナムも韓国・台湾およびASEANの多くも)。そこで、ブルジョア国家と資本に対する、行政や企業に対する、ブルジョア階級独裁と資本主義の賃金奴隷制に対する、2つの方向からの人民の下からの民主主義的統制、これが大きな意味を持つてくるでしょう。

これによって、人民が機械制大工業を基礎とする国家と社会を管理し運営する経験を積む。そうすることによって、社会主義社会をコンミュン・ソビエト型国家で大衆が管理・運営する(それが真のプロレタリア階級独裁)能力を養われるでしょう。(2017.07.18)